平成 27 年度　廃棄物資源循環学会九州支部総会・講演会開催報告

○日時：平成 27 年 5 月 16 日（土）
　　総　会：13:00～13:45
　　講演会：14:15～15:15
○会場：九州大学西新プラザ

＜総会＞

まず, 事務局より総会の定足数 58 名に対し, 149 名（出席者：41 名，委任状：108 名）の出席があり, 総会が成立していることが報告された。次いで，議事に先立ち，染谷副支部長が議長に選任され，議事録署名人として，議長の他に田中副支部長，及び徳永監事が指名された。

議事に入り，１号議案「平成 26 年度事業報告」，２号議案「平成 26 年度収支決算」について，事務局及び担当幹事から報告があり，続いて２号議案の「監査報告」が，吉田監事からなされた。特に意見，質問はなく拍手による全会一致で承認された。次に３号議案「平成 27 年度事業計画（案)」，４号議案「平成 27 年度収支予算（案)」について事務局及び担当幹事から提案がなされ，質疑応答ののち，拍手による全会一致で承認された。最後に報告事項二題（評議員の改選について，第 26 回研究発表会について）が報告され，閉会した。

＜講演会＞

・講師：佐々木 一成 主幹教授・センター長（九州大学 水素エネルギー国際研究センター）
・演題：水素エネルギーの現状と将来展望 ～水素を介した資源循環社会の構築を目指して～
・講演内容

九州大学での水素プロジェクト，家庭用発電のエネファーム，燃料電池自動車(FCV)等の燃料電池・水素エネルギー技術の現状及び将来の展望について講演いただいた。

水素エネルギー技術は, 産業革命以降の“炭素の循環＝燃やすエネルギー変換”から“水素の循環＝燃やさないエネルギー変換”に変えていこうという大きな流れの一つであることの説明があった。

現在, エネファームや FCV 等の燃料電池が実用化されつつあるが，水素は発電技術だけでなく，蓄エネルギーとしても非常に重要な技術であり，変動の激しい自然エネルギーを水素の形で蓄え，必要な時に電気に変える，もしくは FCV の燃料に使うことにより水素はエネルギーのバッファ機能を果たすことができる。

水素は本質的に色々なものに含まれており，その地域が持っている水素(又はメタン)をエネルギー資源として使うことで“エネルギーの地産地消”が可能となり，最終的には地域や個人がエネルギーを選べる時代が来るということでパラダイムシフトとなりうる技術であることが示唆された。このことから，我が国では，石油に依存しない社会が実現できれば，国際政治に振り回されることもなく，また，海外に支払われていた鉱物燃料費が抑えられ，国富の流出も抑えることができるため，国として非常に重要な技術であり，今後の技術開発の意義と重要性について説明があった。